

「三体小学校の三体棒踊りの伝承活動」

1 学校名

霧島市立三体小学校

2 学年・人数

1年生6人，2年生4人，3年生2人，4年生6人，5年生2人，6年生3人，計23人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

8月8日（水） 16:00～17:30 三体小学校

8月12日（日） 16:00～17:30 三体小学校

(2) 発表の日時・場所

8月15日（水） 17:00～ 三体校区夏祭り

9月23日（日） 13:00～13:15 三体小学校運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

三体棒踊り（さんたいぼうおどり）

(2) 由来

約140年前，西南の役の田原坂での戦いに敗れた薩摩の兵を弔うために始められたといわれている。昭和25年までは地域行事で毎年披露されていたが，その後途絶えてしまった。昭和51年に再び披露されるようになり，昭和61年まで敬老会と運動会で踊られていた。しかし，再び途絶えてしまい，平成4年から再び復活し，現在まで活動を続けてきている。

(3) 構成等

浴衣とはちまきを身に着け，5尺の棒や小太刀を持ち，左右，前後の者同士が入れ替わりながら，歌に合わせてかけ声を出すとともに，棒を打ち合う。1回当たり1分30秒程度だが，それを3回以上繰り返して行う。

5 保存会や地域との連携の具体

平成10年に三体棒踊り保存会が発足し，指導者3人，4年生以上31人で，保存会としての活動を始めた。その後，児童数の減少により，一昨年からは1年生以上（場合によっては中学生も）で構成するようになってきた。人数の減少，低年齢化はあるものの，校区を中心として，地域をあげた支援体制が整ってきている。

必要な経費も多いが，霧島市や三体地区自治公民館からの補助を受け，円滑な活動が進められている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

参加児童は，習い事やスポーツ少年団活動にも取り組んでおり，練習回数や時間が限られている。短時間で効率よく練習をし，踊り方を習得していくために，中学生が指導に加わることもある。また，衣装の着付けについては，保護者の全面的な協力，保存会OBの保護者の支援によってできている。

7 取組の様子

9月23日(日)運動会



8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(1) 参加児童

練習を重ねることにより、子供たちも徐々に上手に踊ることができた。三体夏祭りや運動会において地域や保護者へ披露することができた。子供からは「練習の成果を発揮できた。」「堂々と発表することができた。」と感想があった。

(2) 保護者

子どもが練習を頑張っている姿を見て、保護者として協力していくように心掛けた。また、飲み物などの準備も協力できる面は支援を行った。

(3) 保存会

全校児童で取り組めるようになり、伝承活動が活気づいている。披露までの練習や準備は、時間を要するが、地域の伝統芸能としての棒踊りを通して、地域の伝統と誇りを次世代へ伝えていきたい。

(4) 教職員

子どもたちが地域の方と一緒に連携して取り組んでいる姿が見られる。また、参加した子どもたちは、達成感や成就感を味わい、自信と喜びに満ちあふれている。今後も地域や保護者の方と協力して教育活動を展開していく。